

歴史をつなぎ、歴史に挑む。

第二創業期、今だからこそ、できること。



[代表取締役社長]

片山 哲一

Norikazu Katayama

[取締役]

井上 民生

Tamio Inoue

創業 30 年を迎え、2012 年より「第二創業期」を標榜し、新たな歴史を刻みはじめたエフエスユニ。創業時から現在にいたるまで、30 年以上にわたり、その歴史を築き、支えてきた、取締役・井上民生。そして、2007 年より代表取締役社長に就任、次なる 30 年への挑戦と改革を続ける片山哲一。「動」の人・片山、「静」の人・井上。固い信頼関係と絶妙のバランスで、会社を牽引するふたりが語る、エフエスユニの今まで、そして、これからとは――。

ようらんき
揺籃期を経験した社員たち、
彼らは今、エフエスユニそのもの。

1982 年、北九州市小倉。
たった 5 人でのスタート。

井上 30 数年前、エフエスユニという会社がまだ存在しない頃、セントラルユニの中に医療事業部と鉄鋼関係を扱うプラント事業部というものがいました。当時は、鉄鋼関係が徐々に下火になっていく一方で、医療分野の仕事が徐々に軌道に乗り出した時期でした。そうした流れの中、サービス事業をより強化していくということで、セントラルユニのメンテナンス部内を請け負うかたちでエフエスユニの前身となる、ユニメンテという会社が 1982 年に 5 人で発足したんです。

しかし、当時はまだまだ、世間ではサービスにはお金を出さない、サービスは全部タダという時代でしたから、やはり最初は簡単ではありませんでした。そこを、病院に実際に伺い、お客様が何に困っているのか、ということを徹底的にヒアリングして、それに応えていったわけです。そうして、2～3 年かけて、少しずつ利益が出るように変えていきました。

片山 初めの頃は人材の育成にはかなり苦労されたんでしょう？ 当時は、やんちゃな連中もいっぱいいたから（笑）

井上 そうそう（笑）。エフエスユニは、1989 年に野球部を設立したんです。目的のひとつは、会社の宣伝のためでしたが、もうひとつの重要な目的が、若い人材を集めるということでした。そこで、九州中から、甲子園を目指していたような連中を会社の中に引っぱ

り込んでみようという話になったわけです。そういった野球ばかりやっていたような人間を、野球で育てるのではなく、医療の現場で活躍するような人材に育てるという使命が、当時はあったんですね。それは、やはり苦労もしましたが、彼らが成長し、次の代に仕事を伝えながら、現在は会社を支える存在としてがんばってくれているわけです。



ユニメンテ創業当時の様子

片山 そうですね。今はマネージャークラスとして組織を引っ張っていただいています。まさに、彼らはエフエスユニそのものですよ。



[代表取締役社長] 片山 哲一

1968 年 10 月 31 日生まれ。1992 年 株式会社セントラルユニ入社。2004 年 株式会社セントラルユニ 東北支社長就任。2007 年 株式会社エフエスユニ代表取締役社長就任。2012 年より「第二創業期の幕開け」を掲げ、次なる 30 年に向けた革新を進めている。

※株式会社 セントラルユニ
1951 年設立。エフエスユニの親会社である医療用設備メーカー。

新たな挑戦をしていかなければ、 これからの30年は超えていけない。

2007年、片山哲一代表取締役社長就任。
新たなエフエスユニへ。

井上 2006年にエフエスユニ西日本とエフエスユニ東日本が合併して、最終的に現在のエフエスユニになったわけですが、以前は、各社が社長を立てて、それぞれがオリジナルなやり方でやっていたものから、同じグループの中でありながら、お互いがライバル同士になってしまうという、効率的ではない構造になっていました。そこを、片山社長が就任して、本当の意味でひとつになるということをやりはじめたんです。

片山 社長に就任するにあたって、今までのことを否定するわけではありませんが、僕の中で「次の30年で同じことをやり続ける会社は淘汰されていく。31年目からは、新たな挑戦をしていかなないと、これから

の30年を超えてはいけない」という強い思いがありました。その中で、今まで我々が市場に向けて発信してきたこと、それらがお客様にどう取り入れられて、



我々がどう成長させていただいたのか、ということを取り返し、ひとつの区切りをつけた上で、第二創業期に向かってこうと考えました。

そして、僕がいちばん先に手を付けたのが、社員の意識改革でした。当初は、営業職とメンテナンス職（技術職）に分かれていたのですが、全員をセールスエンジニアという位置づけに変えました。というのは、営業は仕事をとってくれば終わり、技術は営業から与えられた仕事をこなせば終わりという旧来の仕組みや発想を変えたかったのです。また、社員のメンテナンスに関する技術、知識の向上も大きな課題でした。こうして、就任後3～4年は、徹底的に時間もお金もかけながら、社内教育、意識改革に没頭し、来るべき第二創業期に向けて、準備を進めてきました。

【取締役】井上 民生

1947年1月1日生まれ。1971年、株式会社セントラルユニ入社。現在の株式会社エフエスユニの前身となる株式会社ユニメンテ（1982年創業）に設立時より携わり、以来30年以上にわたり、株式会社エフエスユニとともに歩み続けている。2006年より取締役。

エフエスユニだからこそその仕事で、 お客様の要望に応えていく。

第二創業期の幕開け。
動きはじめた、次なる30年。

片山 やはり、僕らはお客様にいちばん近いところで仕事をしておりますので、お客様の要望が入りやすい環境にあります。その中で、エフエスユニはどうしても、セントラルユニの子会社として、セントラルユニの製品を販売していくという枠からは外れずにやってきました。しかし今は、顧客要望もどんどんと変化しており、エフエスユニ独自のビジネスというものが求められ出していますし、商材にも変化が生じています。

井上 そうですね。もちろん、これからもセントラルユニとともに歩んでいくわけですが、その中でも、エフエスユニだからこそその仕事を見つけ出したい、見つけ出して欲しい。今、そういう時期に来ていると感じています。

片山 具体的な目標としては、エリアに関しては、6エリアから12エリアに、営業所に関しては、14営業所を最低でも24営業所にという目標を、2020年までには達成したいと考えています。もちろん、仕事環境は厳しいですし、まだまだの部分もあります。しかし、何とかその目標に追いつける人材を育てていきたいですし、そういうふうになりたい、やってみせる、と思っています。

いままで、そして、これから。
つないでいくこと、伝えていくこと。

片山 僕が願っていること。それは、とにかくお客様にも、社員にも、幸せになってもらいたい、ということです。そのために僕はとにかく、みんなが働きやすい環境を整えて、創っていききたいですね。やはり、いつまでも元気のある会社でいたいですし、社員には、ひとりひとり意義を感じながら仕事を、「俺の会社」と言えるくらいになって欲しいですね。

そして、後世の人にむけて「伝え・備え・報いる」ということを、常に念頭において、このことを忘れずにやっていきたいと思っています。

井上さんは、仕事だろうと、遊びだろうと、とにかく、とことんやろうということをやっておっしゃってますよね？

井上 そう、明るく、元気で、楽しく。ときには勇気をもって、つっこんでいく。そして、相手の方には、誠心誠意最後までお付き合いする。それは、僕のモットーですし、引き継いでいてもらいたいことですね。そういう日本人の持帰のような部分は、必ず仕事につながっていくと思っています。

片山 それから、井上さんは社員のことを仲間として本当に大切にされているんですね。僕もいつまでもそうありたいと思いますね。

沿革

年月	事柄
1982年 4月	株式会社ユニメンテ設立
1984年 8月	株式会社ユニメンテを株式会社エフエスユニに変更
1987年 4月	株式会社エフエスユニ関東を設立
1990年 12月	株式会社エフエスユニ関西を設立
1992年 2月	株式会社エフエスユニ東北を設立
2003年 4月	株式会社エフエスユニと株式会社エフエスユニ関西を合併し、株式会社エフエスユニ西日本を設立 株式会社エフエスユニ関東と株式会社エフエスユニ東北を合併し、株式会社エフエスユニ東日本を設立
2006年	株式会社エフエスユニ西日本と株式会社エフエスユニ東日本を合併し、株式会社エフエスユニを設立

